

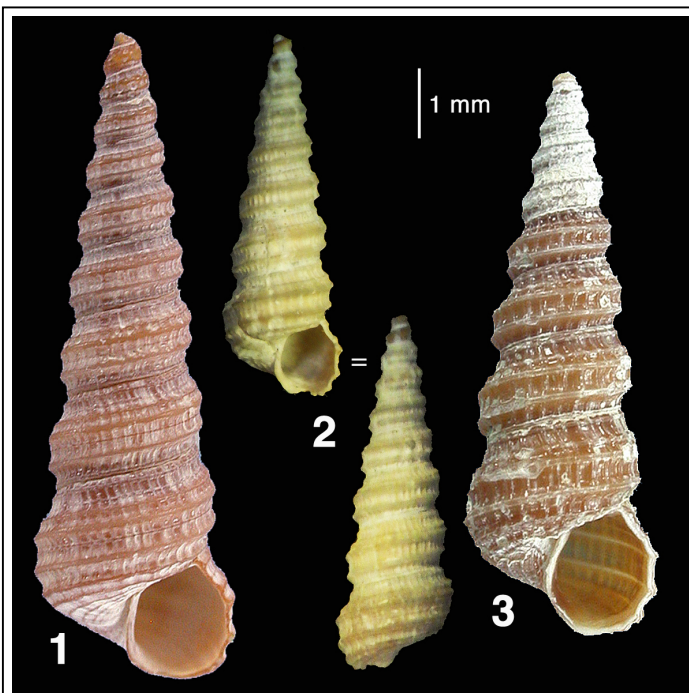
タクミニナ *Mathilda sinensis* P. Fischer

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している。この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻 (図 2) がわずかに採集されたが、生貝は採集されなかった (木村, 1996)。和田・他 (1996) では、現状不明 (絶滅寸前) とランクされている。その後の調査では、2008 年に名古屋港沖 (ドレッジによる調査) で殻の色彩と彫刻が比較的良く保存された死殻 (図 3) が少数個体採集されたが、以後死殻の採集報告例もない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 15 mm の細長い円錐型の貝。螺層の周辺には強く角張った螺肋が 4 本並ぶ。古い死殻では灰白色 (図 2) であるが、保存状態がよい (死後比較的時間が経過していない) 標本 (図 1, 3) では、殻の色彩は赤味の強い褐色であり、生貝の殻の色彩は羊羹色である (福田 宏氏私信)。



1: 名古屋市金城ふ頭サンドポンプ, 1978年頃, 河合秀高採集, 2: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 10-20 m), 1995年 2月 9日, 3: 名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 6 m), 2008年 10月 9日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では近年生貝が採集されておらず、死殻も稀産で 2008 年以降死殻の採集記録もない。河合 (2009) では、名古屋港金城埠頭が埋め立て地だった (1978 年) 頃にサンドポンプで採集された本種の死殻 (図 1) が図示、報告されている。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸沿岸、熱帯インド、西太平洋。国内では房総半島以南の内湾域の潮間帯下部から潮下帯に分布する。近年岡山県 (瀬戸内海) の潮間帯より生貝が 1 個体採集された (福田 宏氏私信)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、県内では近年生貝を採集できない。死殻でさえ稀であり、10 年以上死殻の採集報告もなく、絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックなごや 2010 (木村, 2010) では、本種と正しく同定された名古屋港沖産標本 (図 3) が図示されていたが、レッドデータブックなごや 2015 (木村 加筆 川瀬, 2015) では豊後水道産 (本種は豊後水道のような外洋には分布していない) の別種 (画像ではオオタクミニナと同定される) が図示されているので、ここに訂正する。

【引用文献】

- 河合秀高, 2009. 名古屋港のサンドポンプで得られた貝. かきつばた, (34): 20.
 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
 木村昭一, 2010. タクミニナ, p. 191. in: レッドデータブックなごや 2010 (2004 年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
 木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. タクミニナ, p.400. in: レッドデータブックなごや 2015 動物編. 503pp. 名古屋市環境局.
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)